

視点

観光立県 『がんばれ！埼玉』

別府大学短期大学部 准教授 鈴木 晶 (陳晶)



埼玉県とは縁が深く、今でこそ大分県別府市に単身赴任していますが、大学が休みになるたびに桶川市内の我が家に帰省していますので、来日してからの埼玉県在住は、かれこれ12年ほどになります。私にとっては、埼玉県が第二の故郷のような愛着のある県ですが日頃、観光面で物足りない部分があるのが残念です。

別府市は皆様もご存じの通り温泉で有名ですが、留学生や外国人観光客が多いことから、市民の外国人に接する態度は非常に優しく親切で、私も赴任当日にその優しさに触れました。市内には観光スポットだけでなく、主要な場所には中国語や韓国語、英語の案内表示があり、路線バスに乗ると日本語以外に韓国語や英語でも停留所案内のアナウンスが流されます。埼玉県では、JRの湘南新宿ラインなどで聞いた覚えはありますが、路線バスでは聞いたことがありませんでした。それだけ、国際観光都市として相応しい環境になるよう行政も市民も努力しているのでしょう。

埼玉県も2007年に外国人を誘致するための「外客来訪促進計画」を策定、「東京に隣接し、交通に恵まれ、手軽に来県」できるという立地条件を生かして、外国人観光客の促進を進めているようですが、確かに首都東京に立地していることを最大限活用することは正しい選択ですね。「JNTO 訪日外客訪問地調査2010」によると、外国人旅行者数861万（推計値）のうち、約6割が東京を訪問していて、このうちの何割かを埼玉県まで誘致することで県内の来訪が促進できます。ただ、残念なことに都道府県別でみた訪問率を見ると、埼玉県はわずか1.7%で全国23位でした。東京から距離的に近い神奈川県や千葉県、山梨県

は10位以内に入っているのに、です。

私の祖国、中国人旅行者で見ても、トップの東京には80.0%が訪問、神奈川県は36.4%で大阪や京都に次いで4番目で、わずかの差で千葉県が続く35.3%、山梨県は27.2%で6位です。埼玉県は1.9%で全国14位に甘んじている状況で、東京に近いという立地条件を十分に生かしていないような気がします。

中国人から見て、埼玉は魅力のない県なのではないでしょうか。否、十分に観光地になりうる観光資源を持っています。小江戸・川越だけでなく、サッカーW杯の日本開催で有名になった埼玉スタジアム2002は、サッカーファンの中国人にとって訪れたい場所です。また、大宮にある鉄道博物館は、鉄道の原理や仕組み、最新の鉄道技術が体験的に学習できることから、多くの中国人にも喜ばれるはずです。狭山茶は健康志向の強い中国人にとっては興味があり、埼玉県内に住む私の知人は、大量に狭山茶を買い込み本国に送っていたほどで、茶摘みの体験や試飲などができれば魅力的な観光資源となります。

今の中国人観光客は非常に買い物好きで、観光庁の「訪日外国人消費動向調査」の2011年4-6月期集計によると、中国人の消費額は約299億円(四半期暫定値)で、全体の24.8%を占めトップでした。一人当たり11万1,128円の消費で、県内各地の大型のショッピングモールは最適な観光兼買い物場所となり、中国人の購買欲を満たすはず。こうした観光資源が豊富にある県ですから、うまく観光ルートに設定して売り込めば、東京から多くの外国人旅行者を取り込めるのではないのでしょうか。埼玉県が中国をはじめとする外国人から注目されることを期待しています。